

夏季YCE生帰国報告



土屋 菜々子

派遣国：オーストリア
●スポンサークラブ／佐久LC

日本に帰国してから早いもので1か月が経とうとしています。私は、日本とオーストリアのライオンズクラブの方々のおかげで最高に楽しく充実した時を過ごすことが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。そしてそれは私自身を大きく成長させるものとなりました。

初めの二週間はキャンプに参加しました。そこには世界各国から28人の人が集まっていました。初めのうちはコミュニケーションを取ることにとても苦労しました。日本人は私だけ、到着して2日で慣れない事ばかり。勇気を振り絞って話かけてあまり会話は盛り上がり相手の話している内容が聞き取れなかったり…と英語力の乏しさから消極的になってしまいました。でも、みんなともっと話したい、仲良くなりたいという強い気持ちが私を成長させました。とにかく笑顔で自分に言い聞かせ積極的に相手の国のことを中心に話しかけました。理解出来なかったときは正直に「もう一度お願いできる？」と聞くようになりました。何度も聞き返してしまっても誰一人嫌な顔をする人はいなくて本当に素敵な仲間でした。特に言語文化の違いはとても盛り上りました。「日本語は形が難しいけど面白いし美しいね。」とたくさんの人が興味を持ってくれてとても嬉しかったです。私もイタリア語やハンガリー語など初めての言語にたくさん触れ英語以外の言語も学んでみたいと思うようになりました。2週間は驚くほどあつという間で最終日、もしあるいの国に行く機会があったら必ず連絡を取ろうね。と約束をしてお別れをしました。初日は不安でいっぱいだったけど今でも連絡を取り合うほどたくさんの友達を作ることが出来て、一生キラキラ輝き続ける経験となりました。

次の2週間はホームステイでした。キャンプに参加したことでの英語力も鍛えられ初日からたくさん話しかけることができました。私の行った Tulln という町はドナウ川が流れ、丸い道路や第二次世界大戦を忘れないための石像、たくさんの花など、とても美しく綺麗な町でした。毎週土曜日に行われているというイベントでは市民の人が老若男女・年齢を問わず音楽に合わせて踊っていました、そこで地元ライオンズクラブの方と話すとても面白く、オーストリアの人は気さくでとても親しみやす



いな。という印象を受けました。ホストファミリーの方たちも私のためにお米を出してくれたり、どこか行きたい所はある？などとてもよくして下さり私は常に感謝し続けていました。さらに洗い物や掃除などの家事を通じてより仲良くなれました。私が紹介したかった日本の遊びも紹介する事ができました。折り紙は美しいねと言ってもらい、そしてけん玉は特に興味を持ってもらいました。22歳のホストシスターは毎日毎日練習していく部屋からはずっとコツコツと音がしてました。2.3日するとお皿に乗せるのも、穴に入れるのも私よりもうまく家族みんなで「けん玉チャンピオン」とよびました。日本人はスイカに塩をかけて食べるというととても驚かれたり、梅干しを食べてもらったり日本についてたくさん知ってもらうことが出来たと思います。

私は、この派遣で世界の人と交流すること、異文化を知ることの面白さを感じました。自分から積極的に行動したことで行動力も備わり、何よりも世界観が広がりました。この貴重な経験を糧に大学やその先の人生に生かしていきたいです。

このような機会を与えてくださったライオンズクラブの方々に改めて感謝致します。

* * *



花岡 恵梨子

派遣国：デンマーク
●スポンサークラブ／長野LC

デンマークへの海外派遣を経て私がまず一番に思ったことは、行って本当によかったということと、このような素晴らしい機会を与えてくださったライオンズクラブの皆さんには感謝してもしきれないということです。そう思えるほど、デンマークでの3週間は中身が濃いものになりました。7月26日、日本人がたった一人しかいない中でデンマークの Billund 空港に降り立った時のことを今でも鮮明に思い出せます。初めての土地、そして周りの人が話す言語は日本語でも英語でもなくデンマーク語。当初は期待よりも日本に帰りたいという不安の方がはるかに勝っていました。ですが、空港に迎えにきてくれていたホストファミリーの笑顔を見て自然と心が休まりました。その瞬間から私のデンマークライフがスタートしたのです。

私の場合は全日程ホームステイでの参加で、二つの家庭にお邪魔しました。前半はお父さん、お母さん、13歳と16歳の娘さんと18歳の息子さんのお宅で、後半はお父さんとお母さんそして私と同年代の息子さんと娘さんがいるお宅でした。どちらとも、ホームステイの受け入れを本当に楽しみにしてくれていて温かく家に招き入れてくれました。毎日彼らは私のためにデンマーク料理を振る舞ってくれました。デンマーク人はジャガイモ、小麦そして肉といった穀類をとても好みます。どれもおいしかったですが、日本人との食生活との違いに少し戸惑いました。ですがそれも実際にその国で生活してみなければ体験できないことです。また夕食の後は、テーブルに集まってみんなでゲームをしたり、映画を見たり、話したりしました。ある日の夜には好きな音楽をお互いに教え合ったりしました。私が紹介する日本のアーティストにも興味を持ってもらいました。



本当に楽しい時間で、それと同時に日本から遠く離れた国でこうして同じ話題で盛り上がって笑い合っているということを少し不思議に感じながら、これこそが国際交流の醍醐味だとうれしく感じました。

また、色々なところに行きました。デンマーク出身の有名な童話作家アンデルセンの観光地やレゴランド、他にも色々な場所に連れて行ってもらいました。後半の家族とは1泊2日で首都コペンハーゲンへ旅行しました。首都というだけあって今までの田舎風景とは打って変わり、大都会でした。国際色も豊かでストリートでは多くの大道芸人がパフォーマンスをしていました。たった3週間と言う短い期間でデンマークの魅力を一気に堪能した、そんな滞在になったと思います。

それともうひとつ。彼らと生活を共にして、デンマーク人はとにかく人見知りせずフットワークが軽いということに気付きました。どこでも待ち合わせするし友達に会いたいと思ったらすぐに会いに行くし、誰とでも世間話を楽しみます。老若男女関係ありません。その中でたくさん的人に会ったのですが日本人気質の塊のような自分にとって、最初は苦痛でしかありませんでした。しかし数を重ねるごとに慣れてきて最終的にその中で会話を楽しんでいる自分がいました。それも全て、初対面だろうが気にせず、握手とあいさつを交わして始めるデンマーク人のコミュニケーションスタイルに起因しているのだろうと思います。そして最後に「会えてよかったわ」と言われるたびに温かい気持ちになります。

今回デンマークに滞在して、一日本人としてたくさんのことを話すことができました。少なからずまだ見ぬ日本に興味を持つてもらえたと思います。デンマークの国柄と人を好きになるとともに、やっぱり自分は日本が好きだということも再認識できました。というのも、日本人であるという誇りを持って日本を世界に発信することが大切だと考えるからです。私の人生において、今回のデンマーク派遣が大きな意味を持ったということは間違ありません。ここで得たものをこれから的生活に生かしていくたいと思います。「エリコ、本当に来てくれてよかったです。あなたはすばらしい人よ」と後半お世話になったお母さんに言われた言葉を忘れることができません。多少の苦労もありましたが、それは私が総合的に経験したことの意味と比べればとても小さいものだったと今になっては思います。このような貴重な機会を提供してくださったライオンズクラブの皆さんに心から感謝したいと思います。ありがとうございました。



松下 奈未

派遣国：デンマーク
●スポーツサークル／下諏訪LC



広い空、冷たく澄んだ風、長野県とは違い山のない平らな一本道。

およそ15時間に及ぶ、初めてのフライトを終え、私はついにデンマークに到着しました。空港から一歩出て胸いっぱいにデンマークの空気を吸い込んだ時には、これから始まる一ヶ月への期待に胸が高鳴ったことを今でもよく覚えています。高校二年生の夏、私は遠くデンマークで一生残る大切な思い出をたくさんつくりました

始めの二週間は寄宿学校のような建物で世界中から集まった留学生たちと共にキャンプをしました。キャンプでは、様々なゲームやアクティビティ、そして自由時間が毎日組まれていました。一番初めの日には、"Walk and Talk" という長い長い一本道を歩きながら、一人ひとり全員と話す企画がありました。ここではお互いほぼ初対面なので何を話すか不安に思いましたが、思いの外話しあるほど弾みに弾んで、始めは長く思えた一本道が、とてもとても短く感じられました。

さて、私の今回の派遣の目標は、「食で世界を一つに」でした。それが達成できたのがフードデイでした。世界中からの派遣生たちが世界中のレシピを持ち寄る日です。どの料理も今まで味わったことのない、しかしとてもおいしいものばかりでした。私はお好み焼きを作ったのですが、多くの人が、「日本の料理が一番おいしい！」

「奈未、レシピを教えて！」

と言ってくれたことが本当に嬉しかったことを覚えています。この日は皆笑顔で世界中の料理を食べ、おいしい、と言い合う。この時間は本当に本当に幸せでした。

涙々で別れを告げた後は、二週間のホームステイが始まりました。私のホストファミリーはお父さんお母さん、私の同い年のお姉ちゃん、10歳の弟という家族構成でした。ホストシスターのマリアとは本当に仲良くなることができ、毎日同じ時間に起き、一緒にご飯を食べ、たくさんのクッキーやケーキを焼き、サイクリングもたくさんしました。彼女も私も英語は手探り状態だったのでお互いとてもリラックスして英語が話せました。家族は皆、私のために英語で話してくれ、おかげで



●夏季YCE生帰国報告

私はデンマークについてたくさん知ることができました。ホスト家での夕食は毎晩、大きくて素敵な庭で頂きました。10時まで沈まない太陽のもと、時にはロウソクをつけて、皆でおしゃべりをしながらお母さんの作ったおいしい料理を頂きました。

そんな素敵な時間を過ごしたからこそ、別れのときは本当に嫌で嫌でたまりませんでした。私は空港まで見送りに来てくれたお父さんとマリアのことを何度も何度も振り返ってしまいました。しかしました必ず、再びデンマークで、もしくは日本で会おうと約束したので悲しくありません。

「デンマーク」

一ヶ月前はこの国は私にとってまったくの未知であり、たぶん一生触れ合うことのないであろう世界でした。しかし今となっては、振りほどけないほど強い力で私を引き付けます。私はもうデンマークと、世界と無関係ではいられない感じます。この一ヶ月が私に世界をのぞかせてくれました。今、私はどこにでも行けます。世界もきっと日本の女の子に教えられた日本を知っています。

このように、世界中の人々と友達になれ、手をつなぐことができたのはこの派遣のおかげです。この一ヶ月間のおかげで、私はより多くのことに手を伸ばす準備ができました。私に、このような素敵な機会を与えて下さったライオンズの皆様に感謝を込めて・・・。

* * *



山岸 有里

派遣国：スウェーデン
●スポンサークラブ／安曇LC

7月17日から8月14日までスウェーデンに派遣され、キャンプへの参加やホームステイなどを通してさまざまなことを学んできました。

私は、高校でインタークトクラブという部活動に所属し、3年間様々な国際・地域ボランティア活動を行ってきました。しかし、諸外国の人々と交流するなかで、国際交流の難しさをたびたび実感していました。そんなとき先生から、この研修を紹介していただきました。YCE事業が掲げる、異国の地域社会を体験しつつ相互理解を深め国際感覚を養うという目的に深く興味を持ちました。私自身が感じていた国際交流の難しさについて、解決するきっかけが掴めるのではないかと思いました。

スウェーデンでの滞在の様子を少し紹介したいと思います。

Stockholm の空港では最初のホストファミリーが迎えに来てくださいました。空港から目的地の Alfta までは車で2時間。到着したのは深夜2時を過ぎた頃でしたが、そんな時間まで奥さんが起きていて温かく私を迎えてくださいました。スウェーデンでの初めての夜はとても感動的なものでした。Alfta は人口3,000人ほどの緑あふれる村です。街を散策すると、いたる所で馬や牛、鶏の鳴き声や姿を見かけます。私は高校で畜産について学んでいるので、その様子はとても興味深くまた身近に感じました。Alftaだけではなく、スウェーデン国内を車やバスで移動する際に、家の庭などに家畜をよく見かけました。畜産の様子について研修中に体験する機会もあり、今後の勉強に生かしていきたいと思います。

私が今回の研修で一番楽しみにしていたのは、各国から集う同年代の人たちと共に過ごす2週間のキャンプでした。参加者は18カ国から24名。Safsen という山あいの避暑地で行われました。様々なプログラムが計画されており、本当にたくさんのことを体験することができました。自然豊かな場所でのアクティビティが多かったのですが、最も心に残っているのは最終日に行われた Nation's day です。参加者が自国について紹介し合うのですが、各国の特色を出したアイデアたっぷりのプレゼントが印象的でした。例えばイタリアの子はピザを焼いて紹介してくれました。YouTube やポストカードなどを使って発表した人もいました。誰もが自国のことや文化を堂々と発表していることに驚き、感心しました。私は日本のことなどをどのように紹介しようか迷い、また日本の文化について言葉でうまく説明できないことに少し情けなく思いました。パワーポイントを使って日本の食文化や言葉などについて紹介しましたが、終わった後「とても良かったよ！」と言ってもらえて、頑張って伝えることができて嬉しく思いました。

後半のホームステイ先は Ludvika という街でした。カナダから来ていた Jenna と一緒にお世話になりました。Jenna は日本文化にとても興味を持っていて、彼女は英語、私は日本語をそれぞれ教え合いました。Ludvika には世界的大企業の ABB があり、多くの國の人々が暮らしていて多国籍な街だと感じました。奥さんは教師で、勤務している学校を案内していただきました。課外活動中で生徒はいませんでしたが、録音室や生徒の休憩室、食堂など様々な施設設備が整っていました。スウェーデンは物価が高いと買い物のたびに感じていましたが、そのわりに社会保障制度が充実しており、教育費や医療費などの負担がなく、世界の中でも最先端にある国だと知り感銘を受けました。

研修を終えた今、改めて気づいたこと。国際交流の難しさ、それは今まで私が無意識に作っていた心の壁のせいでした。これまで、どこか任せにして気持ちの上で消極的な自分がいました。でも今は違います。知らない土地、ましてや言葉の壁のある海外で行動するためには積極的にならざるをえません。自分の気持ちを相手に伝え、相手のことをより知ろうと思わなければ、何も始まりません。おのずと積極的に発言し行動している私がいました。様々な文化や考え方につれて、物事を多視点で考えるということの大切さも学ぶことができました。

1ヶ月におよぶ研修での経験は、私にとってかけがえのないものとなりました。この経験を今後の人生に活かしていきたいと思います。最後にこのような貴重な機会を与えて下さった、ライオンズクラブの皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



海外からYCE生を迎えて



マリン ペーターソン

ノルウェー 中野・飯山
●ホストクラブ／長野山ノ内ゆけむりLC

日本に行く前は、ホームステイをして何かをしてみたいということは特にありませんでした。前もって、どのホストファミリーとも連絡をとつてなかったので、少し不安がありました。

しかし、ホームステイは驚くべき経験でした。たくさんのいろいろな方法でとても素晴らしい日本人の人々や日本の文化に見たり、出会ったり、知ることができる機会となりました。

全てのホストファミリーは本当に良く私の面倒を見てくれ、家族の一員として接してくれました。

どのホストファミリーも英語が話せなかったから、途中でコミュニケーションに問題があったことを認めないわけにはいきません。しかし辞書や身振りでそれはたいした問題ではありませんでしたが、何回か欲求不満になりました。

どのホストファミリーも様々なところに連れていってくれましたので、日本とりわけ長野県に関してできるだけ多くのことを見たり、経験できました。本当に良く世話をもらいました。日本の食べ物に挑戦しました、それはとても驚きました。私が食べられるかどうかとても心配してくれましたが、私は挑戦が大好きです。高校訪問、学校祭に出席、スノーモンキー、ホテル、浴衣着ること等、この2、3週間でたくさんの楽しいことしました。

この機会を与えてくれ、日本滞在中にできるだけ多くの計画をたてて、非常にたくさんの時間を費やしてくださったライオンズに、また一緒に楽しい時を過ごし特別な方法で教えてくれたホストファミリーの皆様にお礼を言いたいです。

彼らの家に滞在させてくれて本当に幸せでした。今私はたくさんの日本の兄弟、姉妹がいます。彼らと一緒に滞在によって私にどのホストファミリーもユニークないろんな方法で日本の文化や日本を知ることができました。彼らに会えなくなつて寂しいです。いつか、ノルウェーにも来もらいたいし、彼らを訪問するために日本に戻ってきたいです。

私は日本やホストファミリーが大好きです。私は決して忘れないでしょう。

2015年8月末 長野にて



ホストファミリー：L. 黒川 浩久（長野山ノ内ゆけむりLC）



初めてYCE生を受け入れてみましたが、本当に素直で、明るく、気遣いの出来る子で、僅かな時間でしたが家族の一員のように過ごす事が出来ました。

当初、ホスト役を引き受けてくれたメンバーの家に、猫がいて、実は来日YCE生は猫アレルギーでホストファミリーを変更する事になり、訳も分からず、引き受ける事になりました。家族には事後報告で不安しかありませんでした。

引き受けの当日、子どもと3人で地区YCE第1委員長の所へ迎えに行きました。簡単な挨拶をしましたが、私の子どもは恥ずかしがつてしまいぎこちない挨拶でした。どちらかというと、マリンさんの方がリードしてくれたおかげで、和やかになったようです。

その日は、我が家に迎え入れる準備ができていなくて、幸いにもホテルを経営しているL.常田の所で一晩預かってもらいました。ただ、英語をしゃべるスタッフがあいにく不在で、本人には大変不安な思いをさせてしまった様でした。翌日はL.堀に迎えに行ってもらい、小布施の町を観光してもらいました。その日の夕方に我が家へ迎え入れました。全員の自己紹介をしましたが、やはり、マリンさんにリードしてもらった感じです。その日の行動としては、妙高高原へ夜景を見にドライブをしました。車の中ではあまりコミュニケーションがとれませんでした。翌日は、家族全員で軽井沢へ、ガラス工芸作りを体験に行きました。初めての経験もあったでしょうし、英語を話すスタッフがいたので、マリンさんはリラックスできたと思います。私たちは、英語でのコミュニケーションが全員苦手と判断しました。スマホの翻訳ソフトを使いながらコミュニケーションをとりました。マリンさんは明るく応対してくれるので、とても助かりました。翌日は本人の希望のショッピングにしました。わたくちでは対応に苦慮しましたので、地区YCE第1委員長の下田もも子ライオンのご好意に甘え、半日エスコートいただきました。楽しかったのだと思います。夕方に迎えに行き、メンバーのL.小林の勤め先の旅館で宿泊して頂きました。英語を話せるスタッフがいましたのでかなりリラックスできたようです。暫くいっしょにいましたが、笑い声や笑顔が絶えませんでした。

●海外からYCE生を迎えて

した。少し安心しました。翌日はL. 小林とL. 高山2人のエスコートで地獄谷へ案内しました。猿が温泉に入る風呂で有名なところです。とても興味深げに見ていました。その日の夕方から、ホームステイの経験のある長野グリーンシティライオンズクラブのL. 仁科にお手伝いいただき、預かっていただきました。ウェルカムパーティーと称して、庭でバーベキューをやりました。英語でのコミュニケーションも上手くとれ、リラックスしていました。翌日は浴衣をきてもらひんづる祭りに参加しました。浴衣をとても気に入ってくれた様子でした。また踊りも連の中に入りまわりを見ながら、みよう見真似で踊りを楽しんだようです。翌日は善光寺に行き、仲見世の雰囲気や、お参りを楽しんでいたようです。最終日に迎えに行きましたが、L. 仁科ファミリーと別れを惜しむようにあれこれ談話を楽しんでいました。

あちこちに案内しましたが、コミュニケーションも上手く出来ないこともありましたが、無事にコーディネーターへ引き渡す事が出来て。安心しました。楽しい時間を有難うございました。

* * *



ヨハンナ・ポルデマー

エストニア

●ホストクラブ／穂高LC

ホストファミリー：L. 吉田 満男（穂高LC）

今回、北ヨーロッパの小国エストニアのLC、ダリン・ダイアナより16才のヨハンナ・ポルデマーを受け入れる事となり、7月10日から8月2日までの予定でしたが、来日直前にお母さん同伴で来る事が分かり、3日遅れの7月13日に東京新宿のホテルまで私の長女とYCE第一委員のL. 中條とで迎えに行く事となりました。なんと10日から13日までの間はお母さんと東京見物をしていたことがヨハンナのパソコン画面により分



かりました。それというのも来日前にメールでその事を知らせてあったということでしたが、私のほうにうまくメールが届いていなかったようでした。そんなハプニングもありましたが、私等家族7人の中に溶け込み、寝食をともに過ごしました。すべて会話は英語でしたが、主に長女を通じての会話でありました。予定が多少変更とはなりましたが、ヨハンナは芸術、演技、デザインが趣味とのことで、服飾デザイン画を家では描いておりました。まず我が家家の廻りを見てまわる事から始め、その後、芸術に興味があるとのことで、高橋節郎記念美術館、萩原碌山美術館、松本市立美術館を案内いたしました。今年はこのほか暑い夏でありましたので、家の中では夜中まで扇風機は回りっぱなしでした。好物はアイスクリームとのことでディーボーデンのアイスクリームを買ってやるととても喜んで食べておりました。家での食事も私等と同一でしたが牛乳と納豆は食しませんでした。身体の大きさの割りに小食であり、多少ダイエットをしているように見えました。我が家には小三・小六の男の孫と高一の女の孫が居ますので夜遅くまでパソコンで日本での出来事を本国エストニアにメールをしており、朝は起きてくるのが9時頃となりました。エストニアの夏は、最高気温はせいぜい25度程度との事、こちらの40度近い暑さにはおどろいておりました。多少日本の食文化でもと思い、我が家の中庭で長女の友人（英語の出来る）多数と一緒に流しソーメン夕食を楽しく行いました。また、楽しい思い出にと安曇野市長への表敬訪問や、穂高商業高校生との交流、白馬ヘオリンピック会場の見学、松本城見学等を行い、良い思いでとなつたようです。そしてユースキャンプでの一番の思い出は富士山登山でどしゃ降りの雨に遭ったことのようでした。ヨハンナも常にスマートフォンを手放さず盛んにシャッターを切っていました。私もスマートフォンで写メールをヨハンナに送りましたが、良い思いでになったかなと思います。最後の日は弟の二女・三女も加わりちひろ美術館を見学しました。私もいつの日かエストニアを訪れ近くのサンクトペテルブルクの美術館へ行く事を夢見ております。ヨハンナの成長を楽しみとし、又、来日する事を思い描いております。

